

第28回全国ママさんバスケットボール交歓大会

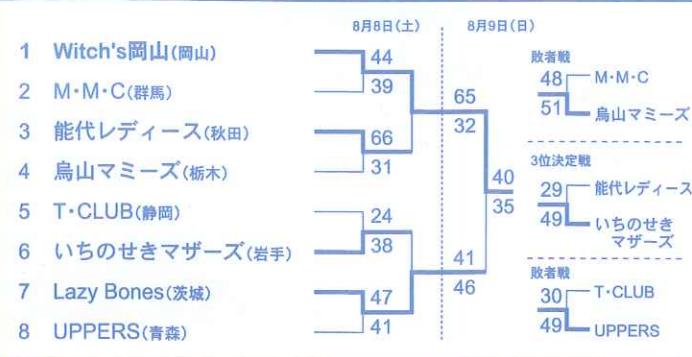
平成21年8月7日(金)~9日(日)の3日間、岡山県岡山市の岡山県体育館(桃太郎アリーナ)と岡山市総合文化体育館(浦安体育館)の2会場で開催されました。

41都道府県より80チーム(一般の部・56チーム、シニアの部・24チーム)が参加して、
ブロック優勝を目指して熱戦が繰り広げられました。

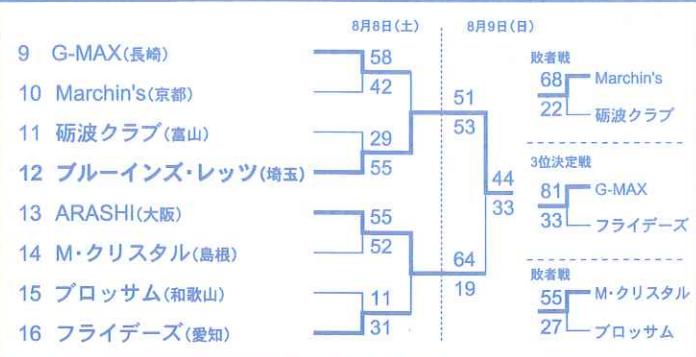


試合結果(一般の部)

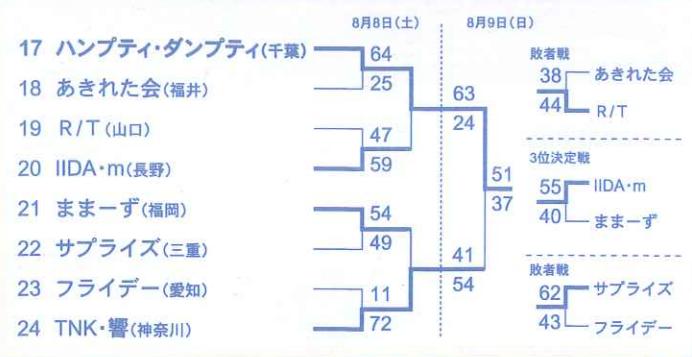
一般の部 A ブロック



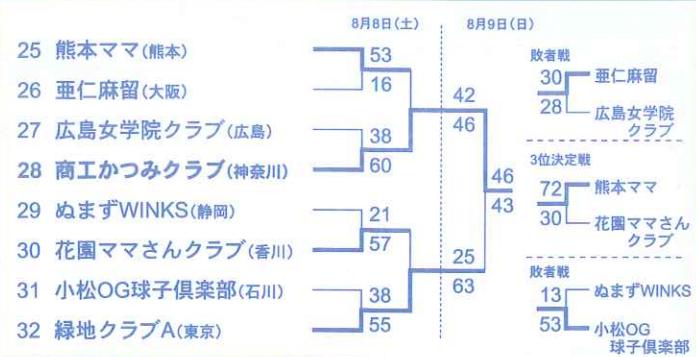
一般の部 B ブロック



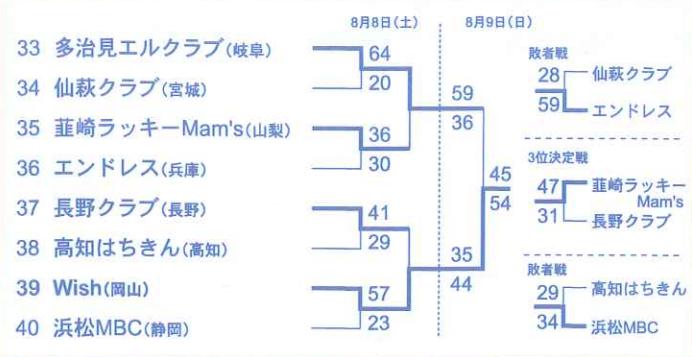
一般の部 C ブロック



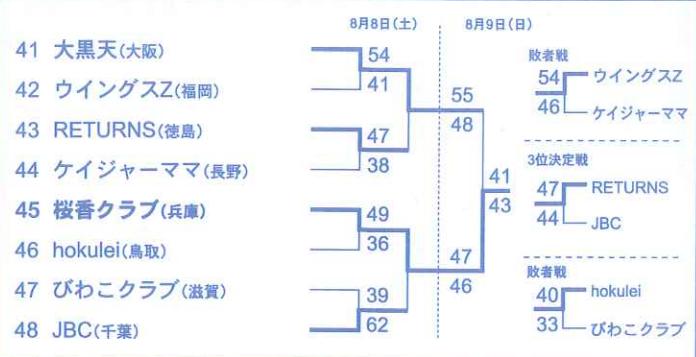
一般の部 D ブロック



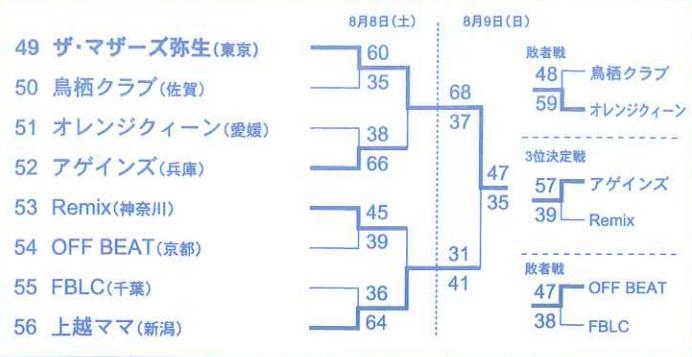
一般の部 E ブロック



一般の部 F ブロック

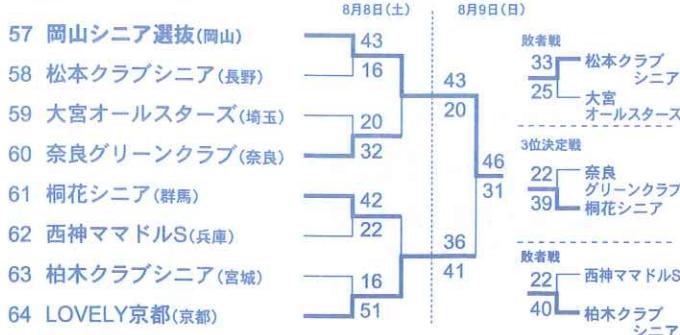


一般の部 G ブロック



試合結果(シニアの部)

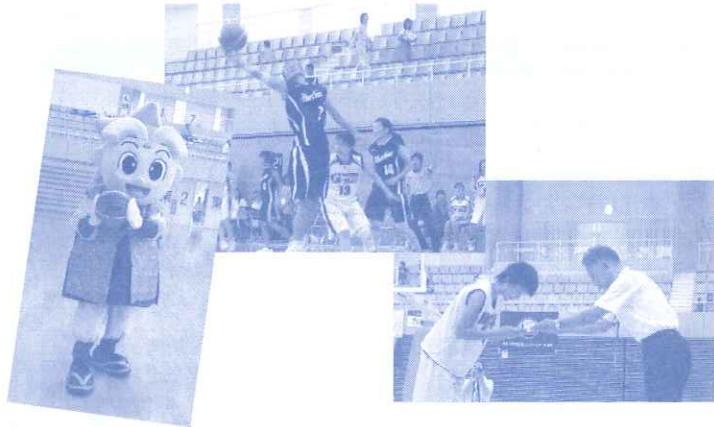
シニアの部 Hブロック



シニアの部 Iブロック



シニアの部 Jブロック



第10回記念 近畿女性バスケットボール交歓大会

近畿女性バスケットボール連盟会長 吉田 愛子

近畿女性バスケットボール連盟は平成21年度の交歓会を8月末日滋賀県野洲市において「10年記念大会」と銘打って行いました。

此の交歓大会は、毎年順次開催府県を巡りかつ、開催地が主体性をもって運営して参りました。勿論、近畿協会並びに各府県協会等の強力なバックアップなしでは開けないのですが、今年は日本家庭婦人連盟からは後藤淳子常任理事のご来駕もあり、力強い激励をいただきました。

昨年本連盟理事会では『近畿はひとつ』の合い言葉に相応しい、しかも開催地に余り負担を掛けない企画で10年通過の節を皆で祝える事は出来ないかと言う協議をし「特別功労者表彰」を取り上げ、準備を進めて来ました。

本交歓会は10年を迎ましたが、傘下各府県においてはそれ以前から活動の推進役となり、しかも現役プレーヤーとしてもパイオニア精神を持ってバスケットボールを愛し、現在も私達の先達として歩み続けておられる最年長60才代の会員を顕彰の対象といたしました。

奥田 久代様 (奈良県理事長・グリーンクラブ所属)

西村 英子様 (兵庫県副理事長・兵庫G・S所属)

吉田 友子様 (大阪府副会長・大阪G・S所属)

上記御3名の方々には、開会式後表彰を行い盾と副賞を贈りその労を讃えました。会員各位がこれからも元気一杯の気力と行動で「より高く・より長く・より楽しく」バスケットボールの醍醐味を“追求”されんことを念願するものです。

そして、開催地滋賀県連盟からも思わぬプレゼントがありました。全参加チーム背番号10番の方々に(10年記念大会の意)巾着袋が送られました。会場から大きな歓声と拍手が上がったのは勿論の事です。

なお、諸施設完備の野洲市総合体育館で涼しくゲームが出来たこと! 大会運営を物心共に支援下さった地元協会と関係者の皆様、役員合い言葉の笑顔の対応! コート整備の高校生諸君! すべてが相和して2日間の競技内容を盛り上げ、かつ交流の輪を深めていただきました。

『近畿はひとつ』の私達の交歓会が10年の歩みを着々と積み重ねて来たことを実感できた大会であり、明日への夢が一層広がって行く想いを持てたことでした。



第8回全国ゴールデンシニアバスケットボール大会

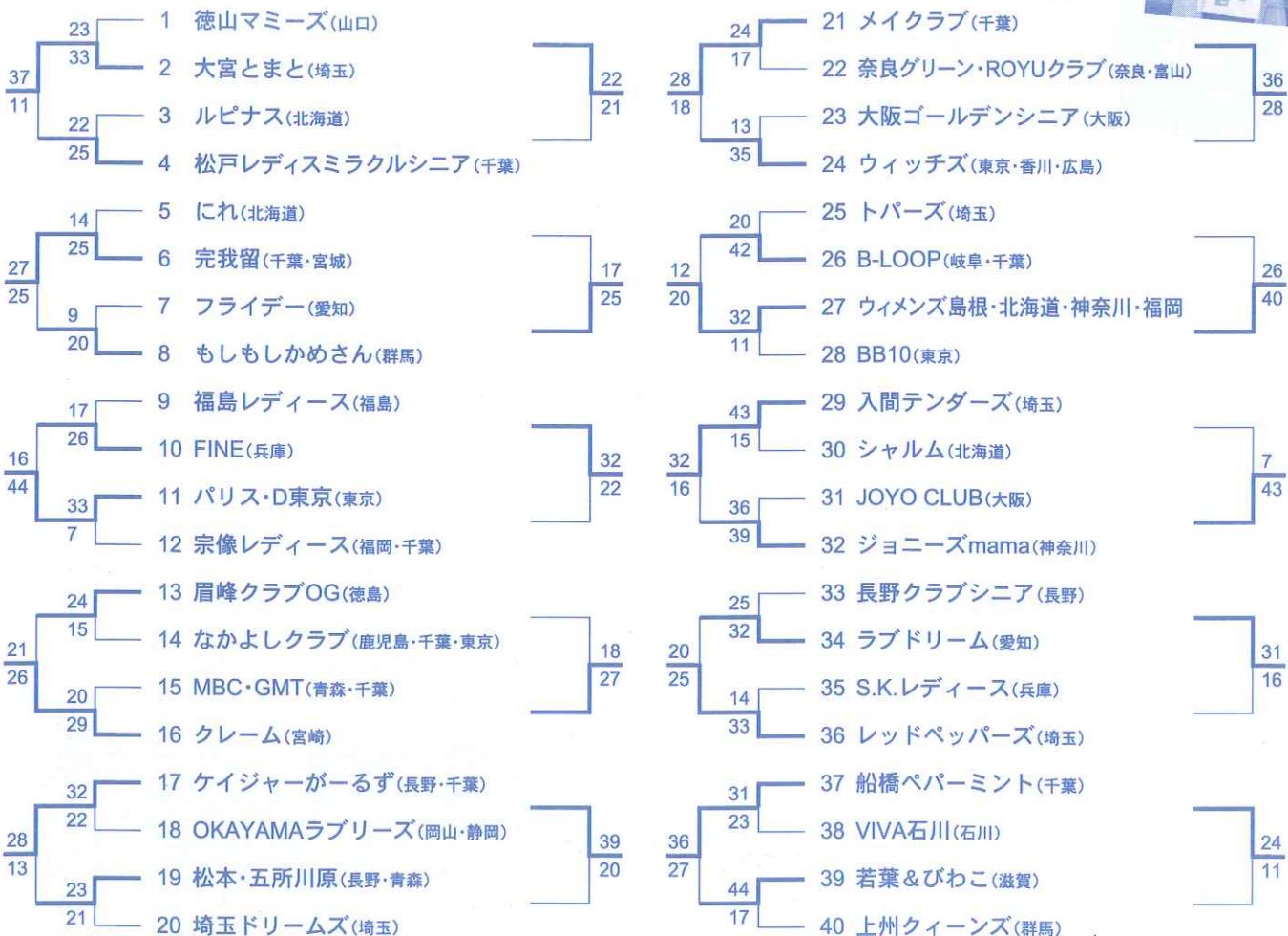
ねんりんピック協賛イベント・第8回全国ゴールデンシニアバスケットボール大会(50歳以上)が平成21年9月5日(土)・6日(日)の2日間、北海道江別市野幌総合運動公園体育館で開催されました。

全国から40チームが集まり、若々しいハッスルプレーが随所に見られました。

又、初めての試みとして60歳以上の参加者が東西のチームに分かれてゲームを楽しみました。



試合結果



【60才以上のゲーム】

9月5日

30 — 18

9月6日

23 — 19

team東日本

team西日本



“72才のバスケ・プレーヤー人生”

S・Kレディース(兵庫県) 大平 和子

2009年9月5日(土)6日(日)江別市、第8回全国ゴールデンシニアバスケットボール大会にS・Kレディース(兵庫)で参加する事に決定。大きな大会に参加するのは46年ぶり、恥ずかしいプレーは出来ないと7月8月は体力UPに専念しました。

おばさんパワー500名近い参加にはおどろきでした。試合時間が短時間の為、プレーが思う存分出来なかった事が心のこりです。

50才、60才代の女性パワーのすごさに圧倒されました。体力勝負のスポーツだけに、何をするのもバスケに関係してきますので日々努力です。

私のバスケ・スタートは昭和23年、小学5年生。物資不足の為裸電球、シューズがなく裸足で練習、足の指は変色していました。バスケ・スタイルは中学、高校、実業団と進みましたが時代とともにプレーも変り、昔はレイアップシュート、ワンハンドシュートはなかったのです。男性でもツーハンドでシュートしてました。男性

の70代・80代のプレーヤーは今でもツーハンドシュートをしています。

2007年64年ぶりに生れた国・キューバに帰国する事が出来ました。日本に比べれば物質的に豊さのある国とは云えませんが南国カリブ海に面してますので、陽気な人々、そしてリズムの有る国民です。ホテルの窓下に学校があり子供達がバスケで遊ぶのが見えたので白髪頭ですが参加させていただきました。最初はこの人プレー出来るの?目がその様に訴えて見えましたがすぐに問題は解決し、楽しく日本人のおばさんとキューバの子供達とプレーが出来たのが良い思い出となりました。キューバ国歌を少し歌えるので歌い始めました校舎から大勢出てきて喝采してくれました。日本人にないリズム感がステップに生かされると実感させられました。

高校、実業団時代は勝つ事を拘ってきましたが、今はいかに少しでも楽しく自分のプレーを続けられるかが課題でしょう。

子供達にはバスケットボールの楽しさを少しでも教え、多くの人々にプレーヤーとして残ってほしいと思います。

第8回全国ゴールデンシニアバスケットボール大会の役員の皆様、大変お世話になりました。今後とも変わらぬご支援、ご指導を賜りますようよろしくお願ひ致します。又の大会を楽しみに待っています。





大阪府家庭婦人バスケットボール連盟(1989年設立)

大阪連盟20年に思う ~バスケットボールの「輪」と「和」~

大阪府家庭婦人バスケットボール連盟 理事長 佐藤 静子

「ママさんバスケットを発展させていくことが、バスケットボール普及への大きな原動力になる。」という尾崎正敏大阪協会会長の熱い思いの上に1989年(平成元年)4月28日、大阪クラブ連盟より独立し、8チームの加盟で大阪家庭婦人連盟がスタートした。

2000年に第1回近畿大会が兵庫の地で開催された。そして、第3回大阪大会でシニアの部、ゴールデンシニアの部を加え、女性の生涯スポーツとしてのバスケットボールの位置づけを確固なものとした。2巡目の第9回大阪大会が、大阪連盟設立20年の年にあたり、その懇親会の席上で、20年の年にあたることを報告し、大阪連盟の尾崎正敏会長、原田茂副会長に理事長佐藤静子より感謝状を贈呈した。このお二人には20年間(それ以上)、物心両面で多大なご支援・ご尽力をいたしました。改めて感謝の意を表したい。

登録チーム数は年々増加し、2000年には28チームとなったが、翌年減少し、今年度は22チームの登録である。年2回大会を開催し、敗者戦も多く行い、チームの試合数ができるだけ同じにしようと努力をしている。選手の年齢層は広く、応援席にはお父さんや子ども、そして、おじいちゃんや孫もいて家族の応援と理解のうえに、コート上にはチームメイトとはつらつとボールを追いかけているお母さんやおばあちゃんの姿がある。そのお母さんの情熱、生き様は子どもたちにも連帯感や充実感を感じさせ、その心の成長に多大の影響を与えていることだろう。良き家族、良き仲間と共に、バスケットボールを通して二つの「わ」すなわち「輪」「和」のいっそうの広がり、深まり期待している。

2011年(平成23年)にはママさんの全国大会が大阪で開催される。大阪協会・大阪連盟一同、そして、近畿連盟の支援のもと、皆さんをお迎えするための準備を進めているところである。



青森県家庭婦人バスケットボール連盟(1999年設立)

県連盟10周年を迎えて

青森県家庭婦人バスケットボール連盟 会長 長瀬 秀雄

平成11年に県協会の理事会に於いて、青森県家庭婦人バスケットボール連盟として承認を得て発足し10年を迎えることができました。

この間、県協会会长はじめ協会役員の皆様には多大なご支援、ご指導を賜り心から感謝申し上げます。

お陰さまで、昨年は記念すべき「第10回東北ママさんバスケットボール交歓大会」を開催し、日本家庭婦人連盟の橋本会長のご挨拶をはじめとし、日本連盟の後藤競技委員長、東北ママさん連盟の千田会長様よりご指導を仰ぎ白熱した好ゲームを展開し無事に大会を終えることができました。紙面をおかりして御礼を申し上げます。

発足当時は、一般4チームのスタートでしたが、現在は一般6、シニア3チームと若干増加しておりますが、ここ数年は経済情勢の悪化や登録料等の問題もあり競技人口の増加には至っていないのが実情です。

それでも、本県の家庭婦人のレベルは非常に高く、全国大会に於いて、昨年は「うみねこ」ブロック優勝、昨年は「MBC」準優勝、東北大会に於いても一昨年、一般的部「アップバーズ」、シニアの部、「アップバーズシニア」準優勝、昨年は、一般的部「うみねこ」、シニアの部「アップバーズシニア」準優勝、今年はシニアの部「アップバーズシニア」優勝、一般的部「MBC」準優勝と好成績を残しております。

又、チーム事態も一昨年ごろから若返りを図り、今後にむけて大いに活躍が期待されます。

役員一同、青森県バスケットボール協会、並びに日本家庭婦人連盟、東北ママさん連盟のご指導を賜わりながら、本県家庭婦人のバスケットボールの普及と競技人口の増加に努めてまいりたいと思いますので、今後ともご指導、ご鞭撻のほど、宜しくお願い申し上げます。



茨城県家庭婦人バスケットボール連盟(1997年設立)

10周年を迎えて

茨城県家庭婦人バスケットボール連盟 理事長 阿部 幸江

まだ県連盟のなかった頃、茨城県協会の沼田秀郎氏が、県内のママさんプレーヤーに声をかけ、わがまま勝手なママさん達を取り纏め、1997年に宮田和夫氏を会長にむかえ茨城県家庭婦人バスケットボール連盟が設立されました。

2000年の第6回関東大会が茨城県開催に決まり、初めての大会運営に悪戦苦闘しながらも、大会終了後なんともいえない達成感と連盟の一体感を味わいました。その後も2006年全国大会、2007年ゴルデンシニア大会、2009年第15回関東大会を開催いたしました。その都度、日本家庭婦人バスケットボール連盟の皆様、周りの家庭婦人連盟の皆様に支えられ助けられ大会を運営することができました。本当に感謝しております。

遅ればせながら今年10月、設立10周年記念式典を開催し、「茨城ママ連 生みの親」である沼田秀郎氏にやっとお礼することができました。

また、日にちを同じくして開催した第15回関東大会懇親会では、私阿部が自ら水戸黄門に姿を変えて、皆様に御札をさせていただきました。

これからも、バスケットボールを通じて広がるつながりを楽しみに、そして大切にしたいと思います。



福井県レディース連盟(1999年設立)

福井レディース連盟10周年バンザイ!!

福井県レディース連盟 理事長 正玄 千嘉子

いくつになってもバスケを楽しみたい！このように願う女性達は福井にも多くいて、その活動の取りまとめをする福井県レディース連盟が発足したのが1999年でした。女性の力で何とか運営しようと努力し、今まで会長以下役員をすべて女性が務めています。審判については福井県の連盟の支援を得て、大会運営等にあたっているところです。個人の都合や家庭の事情などで、活動を休止したりあらためて復帰したりで毎回顔ぶれが入れ替わりますが、みんなレディース連盟の活動を楽しみにしています。

10周年記念の主な行事として次の二つを開催しました。一つは県レディース連盟交歓大会です。交歓大会は毎年すべての加盟チームによりリーグ戦を行います。試合時間を短縮したりファール数を少なくしたりして、その年ごとに参加チームの実情を考慮した特別ルールを用い、ママさんに負担のない大会を目指しています。記念大会では例年にも増して熱い戦いが繰り広げられ、熟練者と若手の力が上手くミックスされた強豪「みなとクラブ」が優勝しました。試合後には参加者全員によるフリースロー大会を行い、商品券(主婦が喜ぶ景品)をかけて、ここでも熾烈な戦いが繰り広げられました。二つ目は合同練習会です。これも恒例行事ですが、今回の合同練習会ではバスケットボールをしたい女性なら誰でも参加OKと門戸を広げ、連盟加盟チームのメンバー以外の方とも、一緒にバスケットボールを楽しみました。中には中学生のお子さんを参加させているママさんもいて、親子でバスケットボールを楽しむことができました。ただ年齢差が大きいと走力に差が出て、ママさん達の方に大変厳しい練習になってしましましたが…。宿泊をかねた懇親会も行い、大いに飲み笑い親交を深めました。

私達レディース連盟の活動は、バスケットボールの競技力向上に寄与することは少ないかも知れませんが、生涯スポーツの充実と、将来のスパースターの育成に少なからず貢献しているかも知れません。レディース連盟の活動では、必ず沢山の子ども達が同伴し見よう見まねでバスケットボールと戯れています。

最後に家族や職場の方々のご理解とご支援に、大変感謝していることを書き添えて、福井県レディース連盟の活動の報告とさせていただきます。



WJBLママさんバスケットボールクリニック

WJBL主催のクリニックが8月8日、国立代々木第2体育館にて、関東地区を中心に55名というたくさんの参加者を迎えて開催されました。まず始めに、富士通 佐々木コーチによる入念なストレッチ。さすがに、現役の選手は身体が柔らかく、ママさん達も一緒に時間をかけて行いました。それから、アップからチーム分けをしてのゲームまで、充実したクリニックとなりました。ゲームでは、勝ち抜いていったママさんチームが、WJBL現役チームと試合ができることになり、熱戦が繰り広げられました。

日本航空 古海コーチをはじめ選手の方々は終始、楽しくバスケットをしましょう。よいプレーには拍手。そして、笑顔。

これから、長くバスケットを続けていくために大切なストレッチ、大好きなバスケットを楽しくプレーしていくことを再確認したクリニックでした。



家庭婦人クリニックに参加して

日本航空JALラビッツコーチ 古海 五月

8月8日に代々木第二体育館において家庭婦人のクリニックに参加させてもらった。私にとっては聖地ともいえる場所だったので、クリニックとはいえど心うきうき状態で参加させてもらった。実業団でプレイをしていた時代は辞めたら絶対にバスケットなんかしないと心に誓った自分であったが、縁あって国体選手として国体に出場、やらされているという感覚からやっているという感覚に気持ちが変化し、結婚出産した後は楽しんでいる自分がいる事に気づいた。体が動いていた時代は楽しむということなど考えられなかつたが体が動かなくなると楽しんだらいいんだと思えるようになった。先日のクリニック参加者のみなさんも年齢のばらつきはあったよう思うが、見ていて本当にバスケットボールが好きで楽しんでいるなあという印象をうけた。最近は子が親が子を平気で傷つけてしまうといった暗いニュースが多くなった。実に残念なことではあるが、その原因の一つは家族のコミュニケーション不足もあるだろうし、親が子を構いすぎによる子供の精神的な成長不足などがあるのではないかと思う中で、お母さんが趣味のバスケを明るく楽しくやっているという姿を子供に見せるということは本当にいい教育になっていると私は思う。今はコーチという立場でバスケットボールに携わっている私だがこれからも体が動く間はチャンスがあればコートでボールを追いかけたいと思うし、私の目標の一つに100歳でスリーポイントを打ちたいという事もある。一人でも多くの家庭婦人の方が少しでも長くプレイをできるといふと思うし、バスケットの経験のない人でも誘って参加するくらいになてもいいかもしれない。もしかしたらその人の楽しみや喜びになるかもしれないし、仲間のすばらしさを実感できるかもしれない。生涯若くというのは無理かもしれないが、生涯青春だと思うことは自由だと思います。みんなん、バスケットを楽しみましょう。

第29回 全国ママさんバスケットボール 交歓大会!

期日:平成22年7月23日(金)・24日(土)・25日(日)
場所:北海道北見市 北海道立北見体育センター・他

第9回 全国ゴールデンシニア バスケットボール大会 (ねんりんピック協賛イベント)

期日:平成22年10月9日(土)・10日(日)
場所:石川県七尾市 会場未定

日本家庭婦人バスケットボール連盟 からのお知らせ

平成22年度より(財)日本バスケットボール協会への登録方法が変更になります。

登録チームの皆様の「新登録制度について」は、所属の都道府県協会や都道府県連盟の指示に従って下さい。

お問い合わせ先とTEL・FAX

総務委員長: 榊原みどり → 東京都杉並区

競技・審判委員長: 後藤 淳子 → 神奈川県横浜市

普及委員長: 高岡 治子 → 東京都大田区

広報委員長: 海老原矩子 → 埼玉県さいたま市

事務局長: 榊原みどり → 東京都杉並区

【事務局】住所:

日本家庭婦人バスケットボール連盟

ホームページアドレスです。アクセスしてね!

<http://lady.jabba-net.com/>

発行: 日本家庭婦人バスケットボール連盟 代表者 橋本章
編集: 日本家庭婦人バスケットボール連盟 広報委員会

ザ・ママさんバスケット

第20号)発行日: 2009年12月